



渡辺 松男 議員

### 学校での危機管理体制について

**問** 2004年に市民によるAEDの使用が認められて以降、急速に設置が進み、その使用により多数の命が救われた。AEDを使用の1ヶ月後の生存率は53.3%、不使用の場合の11.3%に比べ約4.7倍高い。さらに1ヶ月後の社会復帰についても、AEDを使用では45.4%、不使用の6.9%と比べて6.6倍高い。学校でも毎年100人程度の心肺停止が発生し、AEDが活用さ

れずに亡くなった複数の事例もある。心肺蘇生とAEDに関する教育を普及、推進、学校での危機管理体制を拡充し、児童生徒の命を守る安全な学校環境を構築しなければならない。本市の小中学校での心肺蘇生教育の現状と今後の取り組みについて伺う。



小学校設置のAED

**答（教育部長）** 市内小中学校の心肺蘇生教育の取り組みについては、教職員の研修として、AEDを使用した心肺蘇生法を実

施している。また市内中学校の第2学年で、実習を伴った心肺蘇生法の学習を行っており、小学校でも、保健安全に関する発展的学習として市内7校がこの教育に取り組んでいる。

今後の取り組みについては、中学校の心肺蘇生教育では、教材教具を一層充実させ、緊急対応に備えた質の高い学習ができるよう学習環境の充実に努めていきたい。小学校では、市内全校で、AEDを使用した心肺蘇生法を取り入れた保健安全教育の充実ができるよう指導啓発を行いたい。

### ＜その他の質問＞

- ・洪水対策について
- ・土地利用について



鈴木 隆 議員

### 骨太のまちづくり方針について

**問** 少子高齢化・人口減少時代に突入し、海図なき航海に似た地方自治の運営が求められる中、未来を見据え、市長のめざす骨太のまちづくり方針は何か。

**答（市長）** 人口減少の影響は、市税の減少、住民負担の増加、地域経済の活力低下などまちの存続にも多大な影響を及ぼす。そのような状況の中、労働力の中核をなす生産年齢人口の急激

な減少に歯どめをかける施策の展開が必要である。本市では、安定した雇用の創出として仁連地区の新産業用地の形成、若い世代の定住促進として古河駅東部地区のまちづくり、まちの安心安全として駅西地区の常備消防施設の整備、これら3つの基本施策を柱として取り組み、地方創生の時代にうち勝っていききたい。

### 都市のエンターテインメント性の向上について

**問** 若者の定住促進に欠くことのできない、都市のエンターテインメント性の向上にどのように取り組むのか。その手段の一つとしての市民プラザのような施設について、改めて伺う。

**答（市長）** 都市のエンターテインメントとは、人々が楽しめるものや場所であり、アミューズメント施設や文化的な施設も含まれると考える。そのような施設の立地については、さまざまな業種が進出しやすい環境を、今後行政として整える必要がある。また、文化施設の整備については、過去に建設が白紙撤回になった経緯がある一方、建設を求める市民運動も行われており、状況を見極めながら対応していきたい。

